

統一地方選

三鷹で現職敗れる



発行所 都政新報社
 〒160-0023 東京都新宿区
 西新宿7-23-1 T Sビル
 (総務・読者) 03-5330-8781
 (企画広告) 03-5330-8784
 (編集) 03-5330-8786
 (出版) 03-5330-8788
 (ファクス) 03-5330-8808
 購読料 月1,730円(税込)
 毎週火・金曜日発行
 ただし、祝日は休刊
 ©都政新報社 2019

号外

詳しくは23日付の都政新報で

元副市長の河村氏初当選



初当選を支援者と喜ぶ河村氏＝21日午後10時50分ごろ、三鷹市内の選挙事務所で

統一地方選が21日に行われ、現職に元側近が挑む保守分裂選挙となった三鷹市長選は、無所属の新人で前副市長の河村孝氏(65)が3万7074票を獲得し、無所属で5選を目指した現職の清原慶子氏(67)氏との一騎打ちを16223票差で制し、初当選を果たした。

同市長選では自民や公明などが早々に自主投票を決め、特に自民は吉野利明元都議会議長らが河村氏を支援する反面、一部の市議が清原氏の応援に回った。選挙戦序盤では知名度の高さから清原氏の優勢がささやかれたが、終盤は河村氏が訴えてきた市庁舎建て替えの見直しなどの政策が浸透し、逆転につながった。

河村氏は「奇跡の兆候を感じてはいたが、本当に実現できるかは半信半疑だった」と感想を述べ、争点となった市庁舎問題では建て替え凍結を明言。分裂選挙による自民市議団内での「しこり」も懸念される中、「オール三鷹の精神で頑張りたい」とノースайдを呼び掛け、「令和の新時代の新市長として、市民の意見を聴きながら素晴らしい三鷹市にしていきたい」と抱負を語った。

敗れた清原氏は「期待に沿えずに申し訳なく思うが、民主主義の根幹である有権者の選択として謙虚に受け止めたい」と語り、「応援してくれた市民も、私に遠慮することなく、新市長を支えてほしい」と呼び掛けた。河村氏に対しては「支援者だけでなく、広く市民の意見を傾聴して活躍してほしい」と述べた。

一方で、他の首長選では現職が強さを見せた。このうち北区長選は花川與惣太氏(84)が新人2人を退けて5選を果たし、保守分裂の三つどもえとなった清瀬市長選では渋谷金太郎氏(67)が3選を決めるなど、三鷹市長選を除き現職が立候補した14区市町村長選はいずれも現職が当選。また、現職が引退して新人同士の争いとなった中央区長選は現職後継の新人が当選し、江戸川区長選も現職後継の新人が出口調査で優勢となっている。

都政新報購読
お申し込みは
03-5330-8781